

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Interventions for basal cell carcinoma of the skin	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌における介入研究	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCQ15-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	12804465	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cochran database of systematic reviews	
	雑誌 ID		
	巻		
	号	2	
	ページ		
	ISSN ナンバー	1469-493X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2 と 4)	
	発行年月	2003	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bath FJ	
	その他著者 1	Bong J	
	その他著者 2	Perkins W	
	その他著者 3	Williams HC	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		

レビュー研究の 6 項目	目的	基底細胞癌に対する各治療法の有用性を検証する
	データソース	MEDLINE (1966-2002), EMBASE (1980-2002), BIDS ISI (Science Citation Index 1981-2002), The Cochrane Skin Group Specialized register (January 2002), Cochrane Database of Systematic Reviews and Cochrane Controlled Trials Register (2002, issue 1), Mega Register of Controlled Trials on the Current Controlled Trials web site and the National Research Register's MRC Clinical Trials Directory (2002, Issue 1)
	研究の選択	組織学的に確認された原発（未治療）基底細胞癌の成人例を対象としたランダム化比較試験
	データ抽出	2 人のレビューアーが独立して選択。
	主な結果	19 論文を選択。外科的切除と放射線療法の RCT では後者に有意に組織学的な 4 年再発・残存率が高かった（オッズ比 0.09、95%CI 0.01-0.67）。凍結療法は簡便で低コストであり、外科的切除との RCT では臨床的な 1 年再発率に有意差はなかった（オッズ比 0.23、95%CI 0.01-6.78）が、放射線療法との RCT では組織学的 1 年再発率が有意に高かった（オッズ比 14.80、95%CI 3.17-69）。イミキモドクリーム of 初期試験では、表在型基底細胞癌に対する 6 週投与で高い組織学的な奏効率（87-88%）が得られ、結節型への 12 週投与でも 76%の奏効率であったが、外科的切除との比較試験は行われていなかった。
	結論	基底細胞癌の治療法の有用性ということに関して、質の高い臨床試験は乏しい。ほとんどの試験が再発の低リスク部位に発生したものを対象としている。外科的切除と放射線療法が最も有効な治療と思われる、なかでも外科的切除の再発率が低い。他の治療法も一定の有用性はあるようだが、外科的切除との比較試験が少ない。イミキモドは新しい治療法として期待されるが、切除を含めた他の治療法との比較がまだ行われていない。
	備考	
レビューアーコメント	レビューアー氏名	竹之内辰也
	レビューアーコメント	エビデンスのレベル分類 (I) 基底細胞癌の治療の第一選択は外科的切除であるが、介入として外科的切除を含んでいる RCT は、採用された 19 篇中 2 篇のみである。インターフェロン関係が 4 篇やイミキモド関係が 7 篇と、現在の本邦では適用困難な治療に関する試験が大半を占めている。